

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築事業		路河川名等	(主)飯島飯田線 (一)上飯田線									
事業毎の通番		2	市町村名	飯田市	箇所名(ふりがな)	座光寺上郷道路(ごこうじかみさどろ)								
事業概要	事業目的	リニア中央新幹線はJR東海が国土交通大臣から平成26年10月に認可を受け、長野県内においては、飯田市上郷北条地区に駅が設置されることとなった。また、中央自動車道においては座光寺PAにスマートインターチェンジの設置を飯田市が検討しているところである。 本道路は、高速道路とリニア中央新幹線を一体化させ、大都市圏との時間短縮効果等を広く県内に波及させるものである。												
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	都市計画法、道路法										
	関連する事業、計画等	長野県総合5か年計画、リニア中央新幹線工事、座光寺スマートインターチェンジ工事、飯田市都市計画区域マスタープラン、南信地域広域道路網計画												
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量：9,541台/日(H42推計)												
	着手年度	平成28年度	事業期間	12年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)								
完成年度(見込み)	平成39年度	費用対効果	3.1	国庫	7,020,000	その他	5,382,000	県債	598,000	一般財源	179,812	90,915	80,007	8,890
全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=2970.0m、W=6.5(11.0)m			13,000,000	7,020,000		5,382,000	598,000						
年度事業内容(主な工種)	道路詳細設計 L=3.0km 地質調査 1式 橋梁詳細設計 4橋 函渠設計 8基			179,812	90,915		80,007	8,890						
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 28億円 飯田市環状道路、リニア長野県駅アクセス道路の整備												
	間接的効果(定量的・定性的)	大都市圏との時間短縮効果等を広く県内に波及 リニア関連道路整備により、伊那谷の人口カバー率として東京まで90分圏域85%、名古屋まで60分圏域60%												
評価の視点	必要性	○代替道路の有無：代替道路は有るが道路勾配が急で安全性が低い ○交通結節点アクセス：リニア長野県駅、座光寺SIC(仮称)間のアクセス道路 ○生活支援・観光振興：スマートインターチェンジから元善光寺などの観光地に通じる道路。 ○地域の活性化：観光利用や物流利用が見込まれ、地域の活性化に資する			評価	A								
		重要性	○関連計画、重点施策との整合：しあわせ信州創造プラン、リニア関連道路 ○緊急輸送路の路線指定：市道万才線(市緊急輸送路)の代替として避難経路機能を発揮する ○地域指定：東海地震に係る地震防災対策強化地域			評価	A							
	効率性		○費用対効果(B/C)：3.1 ○事業期間：12年間 ○工法等の比較検討：ルート、構造検討を実施 ○他事業との連携：リニア中央新幹線工事、座光寺スマートインターチェンジ工事			評価	B							
		緊急性	○近年の交通事故件数：25件(H24～H26並行する市道万才線、国道153号から県道飯島飯田線間) ○危険箇所対策：環状道路との道路網を形成することで、市街地や(国)153号の渋滞を緩和する ○歩道整備：狭い歩道有り(市道万才線) ○現況の幅員、勾配、半径：幅員5.5m 勾配12%			評価	A							
	計画熟度		○事業情報の共有：関係者以外にも周知説明会を実施、HPIにおいて意見募集を実施 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(飯田市、下伊那土木振興会) ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：「上郷地域リニア対策特別委員会」、「座光寺リニア地域づくり推進会議」が組織されている			評価	A							
		部意見	事業の必要性、重要性及び効率性が高いため、平成28年度から新規事業化したい。	行政改革課意見	中央自動車道とリニア駅を結び重要路線であることから、緊急性が高く、必要性も認められる。	評価結果	○	総合評価	A					

平面図

位置図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本事業区間については、飯田市環状道路の一部を構成するとともに、リニア中央新幹線の効果を広く県内に波及させるために策定した、「長野県リニア活用基本構想」の実現に向け、高速道路とリニアを一体化させ、大都市圏との時間短縮効果を広範囲に拡大させるため、リニア関連道路として整備を進める道路である。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	座光寺スマートインターチェンジ(仮称)からリニア中央新幹線長野県駅(仮称)までのアクセスについては、現道の利用は安全性の点で問題があることや、速達性、定時性も求められることから道路の新設について検討してきている。計画にあたっては、自然環境等に配慮するとともに、当該道路が都市環状道路の機能を有することから、当ルートについて飯田市や多くの地域住民から求められている事業である。
③事業説明等の経緯	事業にあたり地域住民全員を対象とした説明会を実施し意見をいただいていた。説明会は3回(各回2回)延べ6回実施し、現在のルート帯(土曾川案)について概ねの合意を得ているところであり、地形測量を実施することについて了承を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	リニア中央新幹線はJR東海により建設が進められており、スマートインターチェンジは飯田市により整備が計画されている。飯田市都市計画区域マスタープランに位置づけられている。都市計画決定予定。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	ルートの選定にあたり沿道環境について検討する中で、重要な史跡を避け、地形の改変を少なくする計画としている。歩行者が想定される区間については、歩道を設置し安全を確保する。都市環状道路としての機能も有することから、国道153号の渋滞緩和が期待できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、リニア長野県駅と高速道路との直結性が高まり、広く県内からの利用が見込まれ、地域の活性化も期待される。
⑦その他	ルート帯について地域の意見を聞きながら比較検討している。

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 32' 02" 00
	東経:E 137° 50' 38" 00